

かばた

川俣地区住民協議会

第25号

平成28年11月発行



ふるさと川俣夢まつりが開催されました

8月13日 第20回ふるさと川俣夢まつりが開催されました。今年は天候にも恵まれ多くの人で賑わいました。

特に今回はタイムカプセルが掘り出され、夏祭りで皆様にお披露目となりましたので楽しみにお待ちいただいた方も多いようでした。

タイムカプセルは、飯高町が誕生して30年目を迎えた1986年（昭和61年）、将来に夢を託して町内4か所に埋められました。その中の一つが川俣小学校に埋められており、8月1日に掘り出されました。

30年を経過していますが、保存状態も良く、町政資料等と共に入れられていた児童や生徒、一般の方のメッセージも綺麗な状態で残っておりました。

30年前に小学生だった子供たちも立派に成人され、中には自分の子供と一緒に見ているほほえましい姿も見受けられました。「何を書いたか忘れたなあ」、「こんなん入れたの忘れとったわ」と、30年という歴史を感じましたが、みなさんの笑顔が印象に残りました。

自分宛のメッセージを持ち帰られたお家では、皆で泣いたり笑ったり、一段とにぎやかなお盆になったと聞きました。（メッセージは本人にお返ししています）

当時、5年生で、開封を楽しみにしていた
という中村貴則さんにお話を伺いました。



夏祭りには多くの皆さんからご寄付をいただきありがとうございました。
また、事前の清掃作業、当日の準備、翌日の後片付けとお手伝いをいただいた
皆さん、本当にありがとうございました。物心両面にわたる皆様のご協力のお
かげで今年も盛大に開催することができました。
本当にありがとうございました。

実行委員長 萩原利明



裏面に会計報告等を掲載させていただきましたのでご覧ください。

川俣地区の未来を対話で考えるワークショップ



8月21日(日)、飯高総合開発センターで川俣地区の未来を対話で考えるワークショップが開催されました。

このワークショップは、中山間地域の課題やニーズの調査を目的に三重県により実施され、県内で数か所開催される内の一つに川俣地区が選ばれました。

当日は約30名が6班に分かれ、川俣地区の未来について考えました。

3時間という長時間のワークショップでしたが、10年後の川俣地区に何を残すのかというテーマに各班とも活発な話し合いが行われていました。

少子高齢化、過疎化が進む地域の課題は多くありますが、このワークショップは、これからも住みたい、住み続けたい川俣地区のことを考える良い機会となったのではないのでしょうか。

報告書はまとめられ、発表されるということです。

川俣ふるさと祭り・敬老会が開催されました

ふるさと祭り、敬老会が9月24、25日に開催されました。

25日の敬老会には75歳以上326名のうち約100名が参加していただきました。

午前の部は大正琴や踊り、コーラスの皆さんの発表をご覧いただき、午後からは21歳の若い浪曲師 真山隼人さんの浪曲を楽しんでいただきました。

B&Gの体育館では皆さんの力作が展示されました。いつもながら見事な作品に感心しきりです。

今回は川俣の産業の紹介が目を引きました。製造された製品が全国で使われていたり売られていたり、驚くとともに誇らしく思いました。凄い!!



11月20日(日) ふるさと川俣いも祭りが川俣小学校で開催されます。